

# 論語教室だより

『寺子屋・こども論語塾』世話人会

第 36 号

2014 (平成26) 年2月15日 (土)

## 論語塾に行き始めて

北海道教育大学付属札幌小学校5年 石井 雄大

ぼくが論語塾に行くきっかけは、3年前に妹がようち園で論語塾の案内プリントを、もってきたからです。もう一つは、父が高校生の時の先生だったこともきっかけになりました。

論語塾で始めて、「論語」と「坐禅」を知りました。論語を学んでわかった事は、まず第一に意味がわからなくても、元気に読むことが大事だという事です。坐禅をやってわかったことは、心を落ち着かせることができるという事です。

新田先生の教え方は、とてもわかりやすいです。まず、そどくを何回もくり返し、その後に先生のほじょテキストに書いてある「先生の独り言」は、わかりやすく、気にいっています。

ちなみにぼくが好きなしょう句は、論語のカレンダーに書いてある、子曰わく、之を知る者は、之を好む者に如かず。之を好む者は、之を楽しむ者に如かず。意味は、どんなことでも知って、好きになり、それを楽しめたらいいという意味です。

ぼくもなんでも知り、そしてそれを楽しみたいです。

※ 来月(3月)は、藤嶋 亮太君をお願いします。

「<sup>あやま</sup>過<sup>あらた</sup>ちて改<sup>これ</sup>め<sup>あやま</sup>ざる、<sup>い</sup>之<sup>い</sup>を過<sup>い</sup>ちと謂<sup>い</sup>う。」

寺子屋・こども論語塾 主宰 新田 修

過日、教え子から一通の手紙が届きました。本人の了解を得ていますのでその一部を紹介합니다。

「私は高校一年の頃、わけもなく仲間はずれにされたことがありました。仲間はずれにされた人がどんなに苦しいかは、仲間はずれにされた人でなければわからないと思います。

けれど、私が仲間はずれにされることがいつの間にか終わり、別の子がいじめられるようになりました。どうしたわけか、気がついてみると私もいじめの仲間に入っていました。きっと、また一人ぼっちになりました。くなかったからだと思います。それを今になって、とても後悔しています」

卒業して十年以上も経った突然の手紙に驚かされました。きっといつまでも心にしまっておくのが切なかつたのだと思います。今は女兒の母親として立派に生きています。

冒頭の章句は、衛霊公第十五・第三十章に出てくる孔子の言葉ですが、「論語教室だより」第26号の横尾梓未さんの感想文の折に若干説明したと思います。

つまり、「<sup>あやま</sup>過<sup>しつぱい</sup>ち(失敗)に気がついて改<sup>あらた</sup>めようとしな<sup>い</sup>い。それが本当の過<sup>ほんとう</sup>ちと<sup>い</sup>言う<sup>い</sup>のです」という意味であることは塾生の皆さんはわかっているでしょう。

人は誰でも失敗したり、間違ったりするものです。大事なことは、そのままにしておかないで、きちんと改める努力をしなければいけないということです。また同時に、人は同じ失敗を二度と繰り返してはならないとも説いている章句です。

「一児の母親になって、若かりし頃の自分の過ちに気がついて改めようとしたあなたの勇氣に対し、心から拍手を送りたいと思います」と手紙の最後に記して、冒頭の論語を書き添え投函しました。